

震災の教訓を未来へ 子どもたちが伝え、つなげる

3月14日から仙台を中心に開催される第3回国連防災世界会議。そのパブリック・フォーラムの一つとして、防災学習プログラム「命を守るワークショップ」の実施準備を進めている「チーム東中田っ子」取材しました。



▲チーム東中田っ子の皆さん（前列中央が小岩さん。後列左から工藤さん、狩野さん）



▲(上)メモを取りながら話し合いを進めます。(下)グループごとにまとめたことを発表

国連防災世界会議では、国連主催の本体会議のほか、一般の方も参加できる講演会や展示会などのパブリック・フォーラムが、約20の会場で開かれます。普段、東四郎丸児童館を拠点に活動する小学生〜高校生の団体「チーム東中田っ子」は、「市民協働と防災」のテーマ館となる市民活動サポートセンターで「防災・減災ワークショップ『命を守る』」を開催します。7年前から地域でボランティア活動をしてきた東中田っ子。震災時は、自分たちができることを考え、炊き出しや、要支援者69人へのお弁当の配布などを行いました。お世話役の小岩孝子さんは「震災を機に防災活動にも力を入れるようになりました。その一つとして、私が代表を務めるNPOが作った防災学習プログラムを、地域で実践しています」と教えてくれます。

講話から始まります。次に、グループに分かれて「防災リュックに何を入れるか」「外にいるときに地震に遭ったら」などのテーマについて参加者同士で話し合います。進行役は東中田っ子が務め、みんなで決めた事を模造紙にまとめて発表。最後に、災害を伝える絵本の読み聞かせを行います。これまで地元の東中田や、能登半島地震を経験した輪島市などで実施。参加した小学生からは「家族とも避難先や約束事を確認したい」との声が聞かれるなど、防災への意識づくりにつながっています。

世界会議への参加について、高校1年生の狩野愛実さんは「被災地の子どもとして、経験を未来につなげたいと思い、参加を決めました」と目を輝かせます。中学1年生の工藤磨生さんは「これから打ち合わせや練習を重ね、本番では参加者の意見を引き出せるような進行を心掛けたいです」と意気込みを話してくれました。



▲防災絵本「あのひのこと」の読み聞かせ

◆皆さんの防災の取り組みを仙台市政だよりで紹介してみませんか。郵送またはファクス、Eメールで広報課までご連絡ください（連絡先は表紙参照）